骨董品化した古珍書

宮武外骨

青空文庫

大阪の書肆中に於ける第一の人格者と認められて居た故荒木伊兵衛氏、其性格の温厚、篤実は実に算盤玉をはじく人に不似合と思はれるほどであつた、それで予は在阪十余年間、絶えず伊兵衛氏の厄介になつて居たので、東京に帰つて後も其ナツカシ味が失せず、時々の音信を嬉しく思つて居たが、突然の訃に接して愕き悲んだことは尋常でなかつた、それがハヤ壱周忌の記念として血嗣の旧幸太郎氏が、「古本屋」といふ雑誌を創刊するとの報、何を捨置いても故人の追善供養として一稿を寄せずばならぬと、忙中筆を呵して思出のまゝを草したのが此一篇である。

明治四十一年の十月下旬、鹿田松雲堂へ立寄ると主人静七氏が予に対して云ふには「西鶴の好色一代男を先頃手に入れましたが、誰も買人が無いので困つてゐます、先生一つ買つて下さいませんか」とのこと、予は絵本買入が専門であつたので「浮世草紙は集めない事にして居るのであるが、一代男は其代表物であり、絵入本であるから、廉価なれば買つて置いてもよろしい、代価はイクラです」との交渉で、遂に天和二年大阪思案橋際荒砥屋版の大本八冊を三十二円で買つた、それを江戸堀南通四丁目の宅へ持つて帰ると、亡妻が「マタ古本買ですか」と顔をしかめる、予が「これは珍本なので此八冊が三十二円であつた」と述べて投出すと折柄来合せて居た某家の細君が「オヤ勿体ない、その金で上等のお召が買へますネー」と云ふ、予は其細君に「さうでせう、然し此本は二百年前の物です、アナタは其半数たる百年前の着物すらお持ちになつてはゐますまい」と非論理的の理窟で其場を茶化した事もあつたが、此好色一代男を大正二年の春、予が蔵書を売却する時、七十五円の高価で売つた、其後大正十二年の春頃、即ち満十年後のこと、一日東京神田元佐久間町の清水源泉堂に行つた時、店頭に見覚えのある好色一代男を並べてあるので、それを手に取つて見ると、五巻か六巻かの題箋一枚は版物でなく予が手写したもので、確かに予の旧蔵品、廻り廻つて東京へ来たものと知れた、其時源泉堂主人の言に「これは八百円に売らねば利得にならないのです」との事であつた、其後転々して浅倉屋が某家へ千五百円で売り込んだと聴いたが、今は時価二千円以上と唱へて居る、こゝ数年後には三千二百円位に騰貴して、予が松雲堂で買入れた時の価三十二円の百倍になるであらう。

次も同じく明治四十二年の十月下旬、好色一代男を買入れた満一年後、或夜京都寺町若林書店の番頭が予の宅へ来て、元禄六年版の四場居百人一首即ち鳥居清信筆の珍本を差出し、これをお買ひ下さいとの事、代価はイクラかと尋ねれば七円との安値、喜んで購入したが、これも前のと同時に百円の高入札で売却した、それを買入れた書肆は百五十円とかで故渡辺霞亭に売込んだと聴いて居たが、昨年（大正十五年春）予が東京帝国大学図書館へ紹介して購入せしめた霞亭文庫の蔵本中に右の一冊が加はつて居て、今は天下一品の古珍書なりとて、評価一千円と記してあつた、これも昨今は千五百円以上の珍本と称して居る者もある、十七年前の代価七円の二百倍以上とは、これを驚くと云はんよりは寧ろ呆れると云ひたい程である。

斯様な実例を挙げればマダ幾許でもあるが、これだけを見ても、近年甚だしく古珍書の価が騰貴した事が知れやう、これに就て予の感想を云へば、学者として古書を研究するには、借覧にても事済み、又複製本にても用の足りる場合が多いので、強ち高価を払つて購入するにも及ばないのであるから、随つて書価を暴騰せしめる動機を

作る事もないが、世間には何を研究するといふでもない書物道楽のツンドク先生があつて、其所有慾を満足せしめんが為め高価を惜まない者が多いので、斯くも骨董品化した甚だしい騰貴を来たしたのである、そこで二代目荒木伊兵衛氏に警告いたす、書価を暴騰せしめる者は学界の害物である、研究家の邪魔物である、「古本屋」たる者は他の営利商人と其撰を異にし、文化進運の媒介業者であるとの信念を持たねばならぬ、江戸時代の古本書肆が当時の学者に貢献した偉勲談は数々あるが、今は其オモカゲを存する者もなく、只営利に走る輩のみが多いにしても、父君の遺業を継続する二代目荒木伊兵衛たるアナタが、父君遺伝の性格を悪化せしめて「古本屋」誌上に、珍書の価格を暴騰せしめるやうなソヽリ記事を掲出するなどの事があつては、親に似ぬ不孝太郎さんに成るといふ事を忘れぬやうにして下さい。

青空文庫情報

底本：「日本の名随筆　別巻12　古書」作品社
　　1992（平成4）年2月25日第1刷発行
底本の親本：「古本屋　創刊號」荒木伊兵衛書店
　　1927（昭和2）年4月15日発行
初出：「古本屋　創刊號」荒木伊兵衛書店
　　1927（昭和2）年4月15日発行
入力：大久保ゆう
校正：noriko saito
2018年6月27日作成
青空文庫作成ファイル：
このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（https://www.aozora.gr.jp/）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

骨董品化した古珍書

宮武外骨

2026年10月1日　第二版

奥　付

発行　　青空文庫

URL　　http://www.aozora.gr.jp/
E-Mail　　info@aozora.gr.jp

作成　　青空ヘルパー　　赤鬼@BFSU
URL　　https://aohelp.club/
BiliBili　　https://space.bilibili.com/10060483

Special Thanks
　青空文庫　威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー http://aohelp.club/
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
http://tokimi.sylphid.jp/